

篠原幸雄からやましたゆきおへ

# マンガと生きた50年

16

テレビランドの表紙デザインを担当



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日(金)から29日(日)の会期で開催しました。新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

**おやしマンガ同人誌**

**つ新つれづれ草**

# マンガ展

**篠原幸雄からやましたゆきおへ**

## マンガと生きた50年

おやしマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきた。そして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料



イラスト：篠原幸雄  
(著者少年ジャンプと共同連載「男のつれづれ草」の作者の父)

**日時：10月20日(金)～10月29日(日)**  
午前9時より午後9時まで(最終日は午後5時まで)

**会場：森下文化センター1F展示ロビー**  
**お問合せ：森下文化センター**  
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17  
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677  
都営地下鉄新宿線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分  
都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分  
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





# 16、テレビグラフィンドの 表紙デザインを担当

## 仮面ライダー、デンジマンとの出会い

1979年4月、株式会社銀英社設立時にデザイナーとして参加。アニメ特撮イラストデザインのスペシャリスト集団としてのスタートでした。

銀英社設立メンバーでゴジラのイラストで有名な開田裕治氏から「テレビランド」のゴジラ体内図解ページのデザイナーとして編集部に紹介され、テレビランドで初めて、デザイナーとして仕事をしました。

この仕事がかっかけで、1980年1月1日より、「テレビランド」の表紙のデザインを担当するよう

になりました。

新橋駅烏森口の路地裏に有る徳間書店の「テレビランド編集部」に行くと、部屋の隅に有る薄暗い小部屋に通され、仮面ライダーやデンジマンが写っているポジフィルムの束を渡される。大量の写真の中から表紙に使うカットを選べと言っただ。大きなトレス台にポジフィルムを広げて、ルーペでのぞき込みながら、何を根拠に選んだらいいのか分からないまま、一枚の写真を選び出さなければならなかった。

それまで、仮面ライダーもデンジマンの番組もほとんど見たことが無く、キャラクターに思い入

れなど有るはずも無く、追いつめられた私は、とにかく自分でカッコいいと思える写真を選ぶしかなかったのです。

マンガとは違い、自分で絵を描く訳では無いが、



「テレビランド」1980年1月号（徳間書店発行）

キャラクターへの感情移入や構図の取り方は、マンガを描く時のそれと同じだと信じて仕事をしました。



「テレビランド」1980年2月号（徳間書店発行）

## 売上をV字回復させた表紙のデザイン

「テレビランド」の表紙の仕事をさせて頂いたことで、それから先デザイナーとしてやっていく決心がついたのだと思います。

2017年の年賀状で、当時の担当編集者だった青山氏より、左のメッセージを頂いた。

古い雑誌を整理していたら、テレビランドが出てきた。キミが表紙のデザインをしてくれた号。落ち込んでいた部数を一気に取り戻したエネルギーがありました。当時の話をゆっくりしたいものです。元気でいて下さい。

青山 功



森下文化センターにて2017年10月20日（金）から29日（日）の会期で開催された、新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへマ

ンガと生きた50年」開催中の10月28日（土）に開催した「トークショー・50年感謝の集い」で、当時テレビランド表紙の担当編集者だった青山氏より、さらに詳しい当時の様子をお話いただきました。

「当時幼年向きテレビ雑誌は「テレビランド」「テレビマガジン」「これびくん」の3誌あり、「テレビランド」は後発という点でもあり、発行部数が落ち込んでいました。

編集長から表紙の担当をする様に言われていた私は、「デザイナーに山下くんを使う、さらに巻頭のカラーページも全て山下くんのデザインに変更する」。これが認められれば表紙担当を引き受ける

と条件をだしました。希望が認められ、山下くと表紙を作るようになりました。

山下くと作った表紙の最初の号が発売された翌日に、取次店の担当者に肩を叩かれ「やったね」と声を掛けられました。低迷していた売上をV字回復することができたのです。」

私は当時そんなことになっているとは全く知らず、仮面ライダーやデンジマンでどっいたら自分がドキドキできるか、必死でした。その上、表紙のデザインを届けた後は、本紙のカラーページのデザインを発注され、私一人でこんなにやって良いのだろうか、ついでいくので精一杯でした。